

第5章 目標の設定

1. 目標の設定

(1) 目標値の設定方針

立地適正化計画は、おおむね 20 年後（本市では令和 22 年（2040 年））をめざした計画であることから、計画の必要性及び妥当性を客観的かつ定量的に提示するとともに、PDCA サイクルが適切に機能する計画とするため、本市では本計画により実現しようとする定量的な目標値を、本市の現状における課題を踏まえ、「都市構造の評価に関するハンドブック」を参考に「生活利便性」、「地域経済」及び「安全・安心」の観点から検討、設定することとします。

また、本市における立地適正化計画で位置づけ、実施するまちづくり施策の進捗状況について、目標値に照らして評価するための評価軸と評価指標を以下の通りとします。

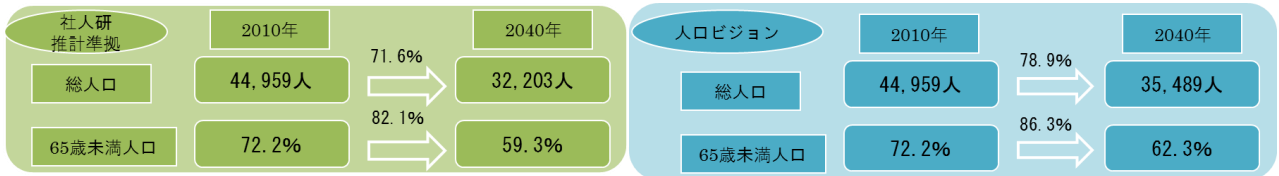
まちづくりの方針	中心市街地を活性化し、生活・交通の利便性を高く確保し、未来を担う若者たちにつなげる魅力的なまちづくり
-----------------	---



施策・方針	評価分野	評価軸	目標指針(評価指標)
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 2px;">施策 1</div> 賑わいのある魅力的な中心市街地の形成 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">方針 2</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">方針 3</div> </div>	生活利便性	都市機能の適正配置	都市機能誘導区域内の新規創業者数
	地域経済	ビジネス環境の向上とサービス産業の活性化	魚津駅・新魚津駅周辺の公共空間を活用したまちづくり活動回数
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 2px;">施策 2</div> 日常生活に必要な機能が整った利便性の高い居住環境 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">方針 1</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">方針 2</div> </div>	生活利便性	適切な居住機能の誘導	居住誘導区域内の人口密度
	安全・安心	市街地の荒廃化の抑制	居住誘導区域内の空家率
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 2px;">施策 3</div> 利便性の高い公共交通ネットワークの形成 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">方針 4</div> </div>	生活利便性	公共交通サービス水準の向上	市内バス利用者数

また、「魚津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」では、緩やかに減少させる目標を掲げています。

国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という)推計準拠での平成22年(2010年)から令和22年(2040年)の総人口減少率予想は71.6%、65歳未満人口は82.1%ですが、「魚津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」ではそれぞれ、78.9%、86.3%に減少率を低減する目標を掲げており、これを参考に目標値を決定します。



※社人研推計準拠の数値は、まち・ひと・しごと創生本部提供ワークシートを用いて試算したものであり、社人研公表値と異なる場合がある。

(2) 目標値の設定

表-5.1 は、まちづくり方針と、目指すべき将来の都市構造、誘導方針を踏まえ、本計画において設定した居住誘導区域及び都市機能誘導区域、都市機能誘導施設を考慮して検討した定量的な目標指標について示したものです。

表-5.1 本計画における定量的な目標指標

評価指標	設定の考え方
都市機能誘導区域内の新規創業者数 (商店街周辺の再興)	創業者支援を行うことで、移住定住を促進し、産業を活性化させ、都市機能を適切に立地することを図ります。
魚津駅・新魚津駅周辺の公共空間を活用したまちづくり活動回数 (にぎわいの発生)	駅周辺において、イベント等による賑わいを創出し、人を集めることで魅力ある中心拠点とすることを図ります。
居住誘導区域内の人口密度 (人口密度の維持)	駅周辺を中心とした市街地における生活サービス機能が維持できるように、居住誘導区域内の人口を維持します。
居住誘導区域内の空家率 (空家率の維持)	空家、空地の利活用を推進し、居住を誘導することで、スポンジ化を抑制します。
市内バス利用者数 (公共交通の持続)	中心市街地が賑わうことで、中心拠点と地域生活拠点及び市街地の回遊性を高めて、市内バス利用者を維持します。

評価指標	現況	目標値 (2040年)	将来推測値 (現況×72%)	備考
都市機能誘導区域内の 新規創業者数 (商店街周辺の再興)	20件 (2018年度)	400件 (20年間維持)		生活利便性
魚津駅・新魚津駅周辺の公共空間を活用したまちづくり活動回数 (にぎわいの発生)	5回/年 (2018年度)	10回/年 (現況の200%)		地域経済
居住誘導区域内の人口密度 (人口密度の維持)	約34人/ha	34人/ha (維持)	26人/ha	生活利便性
居住誘導区域内の空家率 (空家率の維持)	8% (2014年度)	8% (維持)		安全・安心
市内バス利用者数 (公共交通の持続)	約177,000人/年 (2018年度) (人口1人あたり利用回数 4.19)	150,000人/年 (人口1人あたり利用 回数を維持)	127,000 人/年	生活利便性

人口減少は進みますが利便性の高い区域やその周辺に人口を誘導しつつ、人口密度の維持や公共交通を維持し生活利便性を向上させ、市民の外出機会の拡大や魅力ある中心市街地などにより地域経済の活性化を図ります。

2. 効果

都市機能の適正配置、誘導区域内への誘導施設や誘導施策を講じることで、目標の達成を目指します。

これにより、中心市街地をより魅力的でにぎわいのあるまちにすることで、人々を惹きつける中心拠点形成され、その周辺に居住が活性化されることで、拡散する人口密度と都市のスポンジ化が解消され、郊外の開発が抑制されます。また、魅力的な中心市街地が形成されることにより、より便利な公共交通ネットワークを維持し、市民の生活を確保することで、安心・安全な都市になると期待されます。そして、若者にも魅力的なまちとなり、本市が持っているコンテンツをいかに発揮しながら、持続可能な都市の構築を目指します。

表-8.2 目標達成により期待される効果

期待される効果	現況	目標値(2040年)	備考
居住誘導区域内の 小売業の年間販売額 (中心市街地の魅力向上)	290億円 (2014年)	290億円 (維持)	商業統計
居住誘導区域内の公示地価 (中心市街地の魅力向上)	住居平均 39,700円/㎡ 商業平均 65,800円/㎡ (2019年)	住居平均 39,700円/㎡ 商業平均 65,800円/㎡ (維持)	(①、⑤、⑫、⑬) (⑥、⑭、⑮) 第1章の調査地点
魚津市の住みやすさ (総合的魅力向上)	住みやすい 70% (2019年)	住みやすい 75% (向上)	市民アンケート